

「大学のふるさと」事業で 摂南大学が由良町を訪問

平成 26 年 10 月 8 日(水)に大学のふるさと協定の調印を行った由良町と摂南大学において、今後の地域交流事業の取組に向けての意見交換、現地視察等を行うために、下記のとおり摂南大学教職員が学生 14 名と共に由良町を訪問することとなりました。

記

日 時： 平成 26 年 10 月 30 日(木) 11:00~16:00
(大学関係者の一部は、宿泊し 31 日の午前中まで活動)

場 所： 由良町役場等
※役場訪問後、午後からグループに分かれ町内各地で現地視察、意見交換等を実施

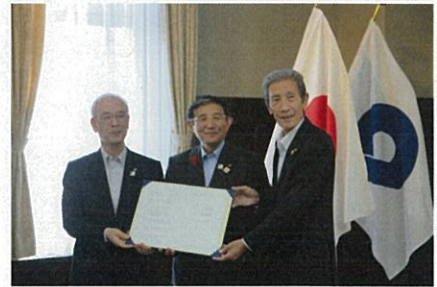
スケジュール：

11:15 頃～ 摂南大学(教職員、学生)約 20 名が由良町長を訪問
11:45 頃～ 摂南大学生と由良町役場若手職員による昼食意見交換会
12:45 頃～

グループに分かれ、役場等の町内各地で現地視察、意見交換等

【テーマ】

葉草栽培
柑橘類、魚類、発酵食品等の活用
高齢者の健康づくりサポート
災害時への備え
廃校舎の活用検討 など



H26.10.8 調印式の様子

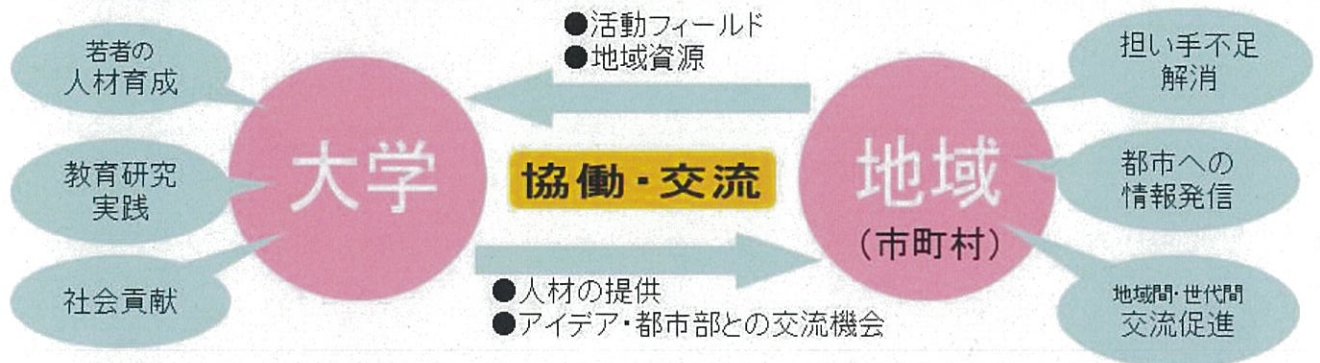
担当	県	由良町	摂南大学
	過疎対策課 濱田、船富	総務政策課 岡崎	地域連携センター 小出
電話	073-441-2930 (内線 2933)	0738-65-1801	072-829-0385

『大学のふるさと』制度(詳細別紙参照)とは、人口の減少や少子高齢化の進行により地域活力が低下している過疎地域において、人材育成における実践的教育や社会的責任として地域貢献活動に対する関心が高い大学が、地域の方々とともに地域課題の解決に向けた協働活動を行い、継続的に交流する取組です。

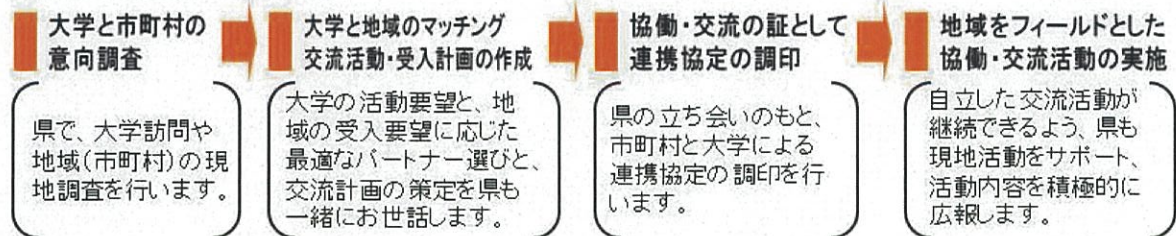
大学のふるさと 概要

都市部の大学と地域の連携をサポート、継続的な交流を推進

- <目的> ● 地域においては、大学の知力や人的パワーを地域活性化に活かす
 ● 大学においては、学生の育成、研究・実践及び社会貢献の場
 ● 地域間、世代間交流につなげ、大学卒業後も将来にわたり続く関係を構築
- <しくみ> ● 過疎化や高齢化に伴う様々な課題を抱える地域と、活動フィールドを求める都市部の大学のニーズをマッチング
 ● 大学と地域(市町村)の継続的な連携を総合的にサポート

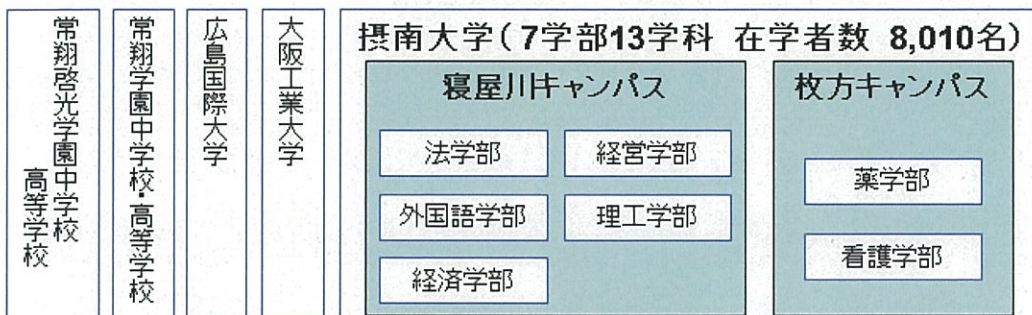


[大学のふるさとの進め方]



摂南大学 概要

常翔学園グループ



- [歴史] 1922年(大正11年) 関西工学専修学校 開校(学園の歴史のスタート)
 1975年(昭和50年)4月 摂南大学 開設
 学園の大阪工業高等専門学校(1962年開設・1979年廃止)の校地・校舎を引き継ぎ、寝屋川キャンパスにおいて工学部(現・理工学部)のみでスタート
 その後、国際言語文化学部(現・外国語学部)、経営情報学部(現・経営学部)、薬学部、法学部、経済学部、看護学部を順次増設、現在、7学部13学科体制
 2010年(平成22年) すさみ町と包括連携協定締結
 2015年(平成27年) 大学創立40周年を迎える

- 在学学生8,010名、内和歌山県出身学生数約166名(H26年度入学者数38名)
 ○平成26年3月卒業生の県内就職者数:24名(本県出身者の地元企業就職率33.3%)